

後期研修レポート

**KMCCキャリアパス研修中!**

福知山市民病院で実際にKMCCキャリアパスを利用している先生に、研修の様子やキャリアパスのメリットなどを語ってもらいました。



年数回の院外講師・福井大学 寺澤先生来福時の様子



研修アンケート 1  
**竹村 雅至 医師**  
出身大学 / 東海大学

**■福知山市民病院の研修の特徴**  
毎日の回診、カンファと症例検討会を通して、患者さんの病気やプロブレム、治療方針を共有し検討しあうことができます。また、毎日のようにある勉強会など、恵まれた学習環境もあり、熱心な上級医のサポートのもとで、研修医それぞれが切磋琢磨しあうことができます。

**■KMCCのバックアップ**  
奨学金や京都府立医科大学大学院、京都大学大学院の入学料や学費が免除になる制度があります。また、京都市内から北部までさまざまな病院で素晴らしい指導医のもとで研鑽を積むことができます。



毎日ある朝カンファの様子。なんと場所はエレベーターホールの前



1・2年生合同の研修医部屋呑み

救急やICUを含めた日々の臨床現場での研鑽だけでなく、各種カンファ、勉強会も豊富にあつて、楽しく厳しく切磋琢磨できる環境が整いつつあります。(日本におけるロールモデルを目指します!) ぜひ遊びに来て下さい!



市立福知山市民病院  
総合内科医長 川島 篤志 先生



研修アンケート 2  
**平野 央 医師**  
出身大学 / 久留米大学

**■キャリアパス制度を利用しようと思ったきっかけ**  
自分は京都府北部の出身なので、将来的にいつか地域医療に従事するだろうという思いはありました。学生時代に出身地域の医療崩壊を目の当たりにして、その思いがますます強くなりました。今すぐ何かを変えることはできませんが、自分のキャリアと併せて地域に役立てる方法はないかと思い、この制度に応募しました。

**■医学生へキャリアパス制度のおすすめポイント**  
将来的に大学院で学位を取りたい人や内科一般疾患を幅広く診たい人におすすめです。



今日1日を振り返って各チームで症例検討中

【病院データ】

**市立福知山市民病院**

TEL : 0773-22-2101  
<http://www.fukuchiyama-hosp.jp/>

基幹的総合病院として、乳幼児から高齢者まで急性期医療にかかる医療サービスを提供し、地域がん診療連携拠点病院、へき地医療拠点病院などの様々な地域医療のニーズを担っています。さらに、平成24年3月からは地域救命救急センターに指定。また、臨床研修指定病院として、教育・研究にも力を入れています。総合内科/研修医ブログも是非見て下さい。

<http://fukugim.blogspot.jp/>

キャリアパスについて詳しくは、KMCC HPへ



Kyoto Medical Career support Center  
京都府地域医療支援センター



**京都で学ぼう!**

**KMCCキャリアパスのススメ**

**KMCCって?**

Kyoto Medical Career support Center (京都府地域医療支援センター)の略称。京都府立医科大学と京都大学医学部の2大学、医療機関や医療関係団体、行政が参画し「オール京都体制」で若手医師のキャリアアップを支えます。平成24年度から京都大学ブランチャを開設しました。

**総合内科・総合診療科コース**

京都の大学、都市部、地域の病院など複数の研修施設をローテート。総合内科専門医資格などの早期取得を目指すプログラム。全国でも屈指のジェネラリストが、あなたのキャリアをサポート!

- 研修期間 / 初期研修終了後4年間
- 研修医療機関

京都府立医科大学附属病院、京都府立与謝の海病院、洛和会音羽病院、京都医療センター、医仁会武田総合病院、市立福知山市民病院、京丹後市立弥栄病院、京丹後市立久美浜病院

**特集1** ...P23

市立福知山市民病院の総合内科で研修中の先生からのメッセージ。



**京都式キャリア支援制度**や府内23臨床研修病院情報が一目でわかるガイドブック(初期・後期)を配布中。KMCCホームページからお申し込みください。



**救急科コース**

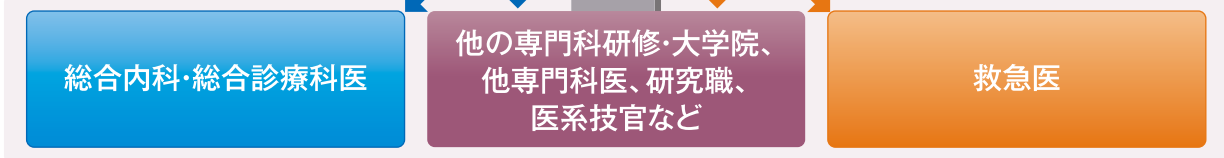
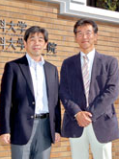
京都の大学と救命救急センターを中心に、救急科専門医資格の早期取得を目指します。各施設での救急医療やICU管理など特色のある研修に加え、サブスペシャリティとして他科ローテートも可能な自由度の高いプログラム。

- 研修期間 / 初期研修終了後4~5年
- 研修医療機関

①京都大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院、京都医療センター  
②府内の救急科専門医指定施設(日本救急医学会) / 京都市立病院、京都桂病院、洛和会音羽病院、新京都南病院、京都九条病院、宇治徳洲会病院、第二岡本総合病院、京都きづ川病院、公立山城病院、市立福知山市民病院

**特集2**

京都府立医科大学附属病院の指導医の先生による対談。 ...P24-25



**京都に属のある医師との絆ネット**

検索 京都 医師 絆ネット

— <http://www.pref.kyoto.jp/drkyoto/> —

〒602-8570  
京都市上京区下立売通新町西入敷ノ内町(京都府庁内)  
TEL 075-414-4721 FAX 075-414-4752  
E-mail [iryo@pref.kyoto.lg.jp](mailto:iryo@pref.kyoto.lg.jp)



山脇教授 現在でも与謝の海病院は、地域の中核病院としての役割を担いながらも、教育も重視している病院です。今後は初期後期研修医がより「層」地域の「コミュニティ」と積極的にかかわり、地域医療を活性化させてほしいという期待があります。さらに今後の医学教育の潮流として、医学部の診療参加型臨床実習でも地域医療が重視されていきます。

総合内科総合診療科コースは、4年間で少なくとも2つの病院をローテートするプログラムです。個人の目的に応じた大学病院も含めて病院の組み合わせを選ぶことができ、地域性や機能が異なる様々な医療シーンを考えることができるので、将来の自分のキャリアを考える上で有意義な経験になるでしょう。

山脇教授 KMCCは京都府と大学病院も含む府内の各病院が一体となつて、柔軟な後期研修プログラムを作成しようという取組です。その中でも、「KMCCキャリアパス」は、各病院が従来の垣根を超えて連携しながら、医師のキャリア形成を支援する取組として非常に意味のあるものといえます。

「オール京都」での意義ある取組  
—では、「KMCCキャリアパス」についてお聞かせください。

山脇教授 地域に密着した与謝の海病院でしか経験できないことが多くあり、教育的な意味でも非常に重要な役割があると考えています。二つの附属病院が一体となつて、教育・診療システムをしっかりと構築していくつもりです。

クローズアップエリア 京都

指導医の声

京都府立医科大学附属病院

大学のまち・京都。「オール京都」の支援のもと、メディカルキャリアを京都で始めませんか？



山脇 正永 先生  
京都府立医科大学  
総合医療・医学教育学教室教授



太田 凡 先生  
京都府立医科大学  
救急医療学教室教授

山脇教授 大学のみならず、京都府立医科大学附属病院の初期研修の特色を教えてください。

選択肢の多さが魅力

京都府立医科大学の総合診療と救急の指導医の先生に府立医大の初期臨床研修の魅力やKMCC（京都府地域医療支援センター）の取組を語っていただきました。

山脇教授 たすぎがけの研修を主体にする当院は、日本で最も協力病院の多い施設です。そのネットワークを活かして、1次医療から3次医療、地域医療から高度医療の最先端まで俯瞰できる研修ができるのが当院の特色です。

また、大学病院を含む研修の強みとして、勉強する環境が整っている点、教育及び研究の最前線を体験できる点があります。研修医には、臨床実習で訪れる医学生や後輩研修医を教える場面が頻繁にあると思いますが、今年から、研修医が身に着けておくべき教育手法について学ぶ講習会や、臨床現場に直結した基礎医学の講義なども積極的にイブニングセミナーに取り入れていきます。

太田教授 私は本学を15年離れていて、3年前に戻ってきたのですが、あらためて感じるのには、この大学には「医師たるもの、良き臨床家である」という伝統が息づいているということでした。臨床医に大切なのは、「患者さんに向かう姿勢」と「医学的な知識」と「技術」の3点ですが、当院の各診療科指導医は、「知識」「技術」は当然ながら、「患者さんに向かう姿勢」が素晴らしい。救急医療科で診療した患者さんを他科に相談しても、とても熱心に思いを継いでくれて、患者さんが安心してできる対応してくれまます。そういった臨床医の、姿勢が伝統としてあるので、研修医にとっても有益な学びの場になっているのだと思います。

—では、後期研修についてはいかがでしょうか？

山脇教授 現在、総合医療・医学教育教室では、後期研修のゴールとして総合内科専門医とプライマリケア連合学会の専門医の2つを目指しています。そのため、大学病院だけでなく、地域中核病院、診療所との連携プログラムを作成しています。研修の中心として選択肢が多く、将来を見据えた後期研修ができることが大きな特長でしょう。

総合診療医はそれぞれの病院や地域によって、その機能や役割が違います。当教室の後期研修は、各後期研修医のニーズに応じて協力病院や協力診療所及び研究期間を選択できるプログラムであり、先駆的、機動的で実践的な総合医が育つてほしいと思っています。特に大学での研修の強みとして、教育手法、医療管理、医療政策や医学研究なども組み込んで、研修に付加価値をつけていきたいと思っています。

太田教授 救急医も、多くの施設や診療科でトレーニングを積んだ方がいいの思いから、後期研修ではローテーション研修を前提としています。

私はどのような患者さんに前にしても、「専門外」だとして診療を避けることがないのが総合医・救急医の基本姿勢だと考えています。「自分は〇〇内科医だから目が痛い人は診ない」とか、「△△外科医だから小さな子供さんの発熱診療はできない」などと言わないのが、総合医であり救急医だと思います。そのために、優れた指導医の下、様々な施設・診療科で研修を積んで、初期研修レベル以上のプライマリケアの知識と技術、姿勢を学んでほしいと思っています。

太田教授 KMCCは「オール京都」での取組です。救急科専門医コースはローテーション研修を前提としており、京都府内の救命救急センター、および2つの大学の救急科スタッフが中心となり、後期研修医にとって成長が見込めるプログラムを組んでいます。特に本学と京都大学が積極的に連携して研修機会を提供するシステムはKMCCならではの、ぜひ積極的に活用してほしいですね。

この制度は、これまでの医師育成機能だけでは果たせなかつた部分を埋める新しい取組です。今後、過疎地でも都市部でも必要とされるだろう総合医や救急医を育てる仕組みを、行政や大学、医療機関でバックアップしながら支えていくことがコンセプトになります。



KMCCキャリアパス  
参加病院

- 総合内科 総合診療科コース
- 救急科コース\*

※救急科コースでは、府内の救急科専門医指定施設での研修も可能。  
京都市立病院、京都桂病院、洛和会音羽病院、新京都南病院、京都九条病院、宇治徳洲会病院、第二岡本総合病院、京都きつ川病院、公立山城病院、市立福知山市民病院

- 京都第二赤十字病院
- 京都府立医科大学附属病院
- 京都大学医学部附属病院
- 京都第一赤十字病院
- 洛和会音羽病院
- 医仁会武田総合病院
- 京都医療センター